



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

日本で最も美しい村 東白川村
次世代に繋ぐ地域の絆、再生する村づくり

東白川村議会活動情報紙

くらしと議会



▲ 9月29日 森林組合との懇談会で現地を視察

第3回 議会定例会

- 02 9月定例会／令和6年度決算認定、条例、補正、その他
- 04 一般質問
- 04 村長の出处進退と令和8年度予算について／今井美道議員
東白川村の職員育成方針について
- 05 ふるさと納税について／今井美和議員
- 06 公有財産売却の公平性について／桂川一喜議員
- 07 議会のあしあと
森林組合との懇談会、濃飛横断道三市一村議会合同委員会
東京要望活動
- 08 議員のひとこと

No.192

2025.11.15

年4回発行
定例議会毎

人口 1,983 人

〔令和7年10月31日現在〕

発行：東白川村議会 編集：議会報編集委員会

〒509-1302 岐阜県加茂郡東白川村神土 548 番地 ☎ 0574-78-3111 <https://www.vill.higashishirakawa.gifu.jp/>

令和7年第3回定例会を開催



全会一致で決算を承認しました

令和7年9月定例会が9月4日に開会、一般質問に3人の議員が登壇し、村長の出処進退についての質問を行ったほか、村政に関する質問を行いました。

提出された議案は、7月豪雨災害復旧に係る専決補正予算2件、一般会計補正予算7件、条例案件3件、同意案件1件、その他案件2件、令和6年度7会計（2事業会計含む）の決算を審議し、それぞれ可決、同意、認定し9月8日に閉会しました。

▼条例案件3件

①東白川村職員の育児休業等に関する条例及び東白川村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例：仕事と育児を行う職員の職業生活と家庭生活の両立を一層容易にするため、地方公務員の部分休業制度の拡充、及び仕事と育児の両立支援制度に関する職員への意向の聴取・配慮等の新設

②東白川村常勤の特別職職員の給与の特例に関する条例について：職員の不祥事による、村長・副村長・教育長の給与1か月分の減給を定める特例条例の制定。

▼専決補正案件2件

①令和7年度東白川村一般会計補正予算（第3号）既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ6、886万円を追加し、歳入歳出予算の総額を

賛成討論

桂川一喜議員



賛成討論を行う桂川議員

令和6年度一般会計並びに特別会計4会計及び事業会計2会計の決算認定に当たり、賛成の立場から意見を申し上げます。

財源確保にも工夫がみられ、村民の大切な財産を節約すると共に国や県が掲げる方針をうまく村政に取り入れることにも大きく役立っているものと思われま

中でもふるさと基金やふるさと基金指定寄附金の大幅な増加には目を見張るものがあります。

財源確保という結果だけでなく、村の資産の魅力を内外に広く宣伝することにも大きく役立っているものと評価します。人口の減少と反比例するように、以前に整備されてきたインフラが次々と更新を迎えてきている昨今です。

れぞれ31億4、685万5千円としました。

②令和7年度東白川村簡易水道事業会計補正予算(第1号)

▼補正案件7件

①令和7年度東白川村一般会計補正予算(第4号)既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ3億4、540万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ34億9、225万8千円としました。

(主な内容)

▽ふるさと思いやり基金への積立1億9千万円追加…ふるさと納税の年間見込額を基金に積立。

▽【地方創生】地方版総合戦略推進事業115万9千円追加…次期総合戦略改定支援委託料。▽【重点支援】調整給付金事業175万8千円追加…定額減税しきれない所得水準の方への給付金▽【重点支援】水道使用料金支援事業1、110万円追加…水道使用料基本料金5か月分免除。▽【重点支援】子育て世帯給食費支援事業396万円…

保・小・中への給食費支援。【重点支援】CATV使用料支援事業249万9千円追加…使用料2か月分免除。▽遺家族援護事業720万2千円追加…平和祈念館遺品展示室改修等経費。▽危険木除去事業108万3千円追加…大明神地内の危険木除去委託料。▽東白川つながるナビ事業493万9千円追加…寄附いただいた住宅をゲストハウスへリフォームするため

の設計管理委託料・工事費▽地域産業活性化対策事業1、110万8千円追加…村内産品コンサルティング委託料・商工業新規開業支援補助金▽ふるさと納税事業8、087万円…ふるさと納税還元記念品・業務委託料・決済システム使用料等▽官民協働の地域づくり支援事業139万9千円…井ノ平墓地整備補助金▽道路橋梁維持事業247万6千円…村道鈴原線未登記用地分筆委託料・小規模修繕等単価契約工事費▽消防施設管理費99万3千円…消防ポンプ・ポ

ンプ自動車修繕▽災害対策費69万円…行政防災無線無停電装置修繕ほか

②令和7年度東白川村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ125万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億9、034万6千円としました。

③令和7年度東白川村介護保険特別会計補正予算(第1号)

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2、044万8千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ3億1、044万8千円としました。

④令和7年度東白川村国保診療所特別会計補正予算(第2号)

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ206万5千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億7、023万4千円としました。

⑤令和7年度東白川村後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ264万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ6、364万3千円としました。

⑥令和7年度東白川村簡易水道事業会計補正予算(第2号)

既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ125万3千円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ2億9、034万6千円としました。

⑦令和7年度東白川村小規模集合排水処理事業会計補正予算(第1号)

教育委員にクヤンスー

任期満了に伴う新たな教育委員会委員に、クヤンスーみか氏(日向)を選任しました。任期は、令和7年10月1日から4年間です。

令和6年度決算を認定

9月定例会は、いわゆる前年度決算の認定議会となります。

今定例会では村の一般会計、4つの特別会計、2つの事業会計について、決算を承認しました。

今回の決算の中でも、十分とは言えない財源をうまく活用しつつ、住民に不便が及ばないようにし、かつより更新事業を推進されていることがわかります。

今回の決算全体を通して気になる点があります。決算報告の多くが、予定とされている事業が無事に完了したという点に集中しており、期待されていた効果が達成できなかったという報告が少なくないという点です。決算結果を参考に予算の在り方を検討する必要性が

あるのか、もしくは、予算に対して効率的な事業展開がなされていたのか、今一度見直すきっかけになってもらうことを期待します。

資産管理において、法的、民主的な処理が曖昧な点が見受けられたことは、村民の大切な財産を管理する責任、行政が持つ平等性を担保する上において、今後、より慎重な処理をしてもらうことを希望しつつ、令和6年度の決算認定の賛成討論といたします。

令和6年度 一般、特別、事業会計決算

会計別		歳入決算額	歳出決算額
一般会計		36億2,507万3,960円	33億4,374万3,150円
特別会計	国民健康保険	2億7,612万9,426円	2億5,790万5,917円
	介護保険	3億1,809万2,928円	2億8,594万5,784円
	国保診療所	2億7,303万6,871円	2億5,348万1,759円
	後期高齢者医療	6,841万1,924円	6,070万6,906円
簡易水道事業会計	収益的収支	2億2,326万4,430円	2億1,552万4,195円
	資本的収支	1億4,934万686円	2億2,302万5,276円
小規模集合排水処理事業会計	収益的収支	2,150万1,889円	2,393万8,814円
	資本的収支	402万8千円	835万5,999円

令和6年度の一般会計歳入決算額は、36億2,507万9千円、歳出総額が33億4,374万3千円、特別会計4会計を加えた決算総額は、歳入が45億6,075万円、歳出が42億178万3千円となりました。

一般質問 (今井美道議員)



- ・ 村長の出処進退と令和8年度の予算について
- ・ 東白川村の職員育成方針について

Q. 次年度以降の出処進退と令和8年度予算に対する考えは。

村長が来年度の出処進退をお示しいただくことで来年度予算編成への思いや責任の在り方が明確になってきますので、出処進退と第六次総合計画を踏まえた8年度の予算に対する考えをお聞かせください。

A. 次期村長選挙には出馬しないことを決意いたしました。(村長)

【村長】

今回、私に与えられた任期があと半年となるこの時期に、出処進退について、以下の考えに立つて、次期村長選挙には出馬しないことを決意しました。最初に、もし仮に4期目を務めるという想像をしたときに、4年後には私は79歳となり、能力や健康面で、その重責を全うできるか一抹の不安を持ったこと。また、後進が活躍できる機会と時間を提供することも現職村長の責務であると考えています。こうした点を踏まえこの決意に至った次第です。

た次第です。

今後は、残された半年間という任期を全力で全うすること、改選期が4月ですので、令和8年度予算については、新規事業等は極力抑え、新体制がその特色を生かせるよう、継続事業を中心に予算編成を行う予定で、最後に、4月に行われる村長、村議会議員選挙に向けて、村民の皆様への審判を受けるべく、活発な活動、意見交換等が行われ、しかるべき新体制が誕生し、遅滞なく村政が推進されますことを願いつつ、私の決意表明と致します。

Q. 東白川村人材育成方針はどういった場面で使用されるのか。

「村民に求められる職員を目指して」との目標で平成23年3月に作成された東白川村人材育成方針の中に、「人材育成は、中長期的な視点に立ちながら計画的かつ総合的な取組を行っていくことが必要」とあります。この3月、多くの幹部職員の昇格・異動がありました。

こうした中、この東白川村人材育成方針はどういった場面で使用されるのか、また平成23年以降、改定または変更がなされたのかを伺います。

A. 村の将来を担う人材を計画的かつ地域の実情に即して育成するための基本的な枠組み(総務課長)

【総務課長】

東白川村人材育成方針は、村の将来を担う人材を計画的かつ地域の実情に即して育成するための基本的な枠組みとして機能しており、村政の各局面を横断して活用されることを想定しています。年度の予算編成と事業計画、行政組織内部の人材育成、組織力強化の指針など、村政のあらゆる場面で共通の基盤となるものであり、地域の持続的な発展と住民サービスの質の向上を実現するための指針として機能しています。活用方法としては、行政運営における活用が上げられます。

次に改定については、この人材育成方針が初め

て策定されたのは平成15年であり、現在の方針は行財政を取り巻く環境が大きく変化した平成23年3月に改定したものです。以来、この方針に基づいて人材育成を図っており、改定から14年たった現在でも十分に通用する方針であることから、その後改定は行っていないが、デジタル分野の人材育成方針の重要性も明記する必要はあると考えています。

Q. 令和5年12月に、総務省より、現行の指針を全面的に改正し、各地方公共団体が基本方針を改正する際の新たな指針が示されました。

新たな指針の改正点は、人材確保、デジタル人材の育成が大きく示されています。総務省の指針は期限はありませんが、人材確保などの中長期的な方針を描くことで、短期的な手法や継続的な職員配置などを考える上では重要と考えますので、新たな指針に沿った基本方針への改定が望ましいと思います。

この中では、職員研修プログラムが公表されています。職員が昇格時、必須なのかまた、必須項目は全て達成されているか伺います。

A. 公表されているプログラムは、全職員が研修を図れるよう設計されています。(総務課長)

【総務課長】

職員研修基本方針は、職員自らの自己啓発を促す姿勢を基本に、組織としての能力向上を確実に進めるため、職員研修プログラムを公表し透明性と公平性を確保するものです。プログラムの内容については、職員一人一人の成長段階に応じた学習機会を組み合わせる体系的な研修構成を基本としています。必須であるかという点については、現状では、市町村研修センターを活用した研修を全職員に義務付けています。また、必須研修以外にも様々な職員研修プログラムがありますので、職員には研修案内を提供し、自己啓発の機会を提供しています。

一般質問 (今井美和議員)



・ふるさと納税について

Q. ふるさと納税の村の推移について伺います。

ふるさと納税ワンストップ特例制度開始から10年が経ち、寄附が全国的に増えていきます。8月27日の岐阜新聞に、2024年の岐阜県内42市町村のふるさと納税額の記事が掲載され1位関山市、2位可児市、3位高山市の順でした。村の推移を伺います。

A. 令和6年度は約1億3935万円となりました。(産業建設課長)

【産業建設課長】

本村のふるさと納税の推移についてですが、令和4年度実績は約2192万円、令和5年度が約5751万円、昨年令和6年度は約1億3935万円となっています。

Q. 目標達成の要因は何だと思えますか。

年々増えており、素晴らしい成果だと思えます。2年前、来年の目標額を聞いたところ、1億円と村長が答えられました。有言実行で目標金額達成の要因を伺います。

A. 新たにふるさと納税ポータルサイトからの寄附の受付を増やしました(産業建設課長)

【産業建設課長】

寄附額1億円を目標に設定し、新たにふるさと納税ポータルサイトと呼ばれるウェブサイトからの寄附の受付を増やしましたので、寄附を希望される方が確実に増えたと思います。また、目標金額の達成の大きな要因として、令和5年度からふるさと納税事業の一部を民間業者に業務委託したことで、村独自の魅力的な返礼品を拡充することができ、地域の特徴を生かした戦略の展開がしつかりできたことと思っています。

Q. 村の返礼品の人気品目は。

岐阜新聞によれば、村は寄附額では42市町村中、29位、寄附件数では13位となっています。村の返礼品で人気のある上位商品は何ですか。

A. ナラまき約200kgが一番の人気です。(産業建設課長)

【産業建設課長】

令和6年度の返礼品BEST3ですが、寄附金額では、ナラまき約200kgが一番の人気です。続いて、飛騨牛の口ー入切り落としなどで、以降は令和7年産のコシヒカリとなっています。

Q. 10月からの制度改正による影響は。

総務省は返礼品やポイント還元に過度な競争があったことから、地域への応援、本来の趣旨を回復させるため10月から制度改正となりますが、改正後、村のふるさと納税にどのような影響が考えられるか伺います。

A. 大きく2つの制度改正が行われることとなりました。(産業建設課長)

【産業建設課長】

1点目の改正は、募集の適正基準の強化です。自治体が返礼品を提供する際の経費の使い方や宣伝方法について見直しが行われます。

2点目は、寄附に対するポイント還元の全面禁止です。寄附者に対するポイントや特典付与が全

てのポータルサイト等で禁止されるため、ポイント活用したい人の減少が予想されます。今後の対応としては、ふるさと納税制度をよくご理解いただき、特産品の充実に努め、また、ふるさと納税制度を通じて情報を発信して、本来の趣旨である村を応援したいと思っていただくよう努めていきたいと思っています。

度開催予定の第50回郷土歌舞伎公演でクラウドファンディング型のふるさと納税ができないか、相談を受けています。

Q. 今年度のふるさと納税の目標金額は。

いろいろな策を凝らして、返礼品の供給体制も充実されるとのことですが、やはり今年度の目標金額をお伺いします。

A. 今年度のふるさと納税の寄附額は、目標を2億円以上としています。(村長)

【村長】

近年全国の自治体では、地域課題解決型のプロジェクトとしてクラウドファンディング型ふるさと納税が広がっています。村ではクラウドファンディング型ふるさと納税の実績や検討状況はあるのか伺います。

A. クラウドファンディング型は現在はやっていません。(産業建設課長)

【産業建設課長】

過去にうちのこフェスタ開催のための募集を行い12万3000円の寄附金が集まりました。現在、歌舞伎保存会が令和8年

今年度ふるさと納税の現状は、7月末現在で2、800万円を超えました。これは前年度の同時期の寄附額の2倍を超えるペースとなっており、単純計算では、今年度は昨年度の2倍となり、2億8000万円程度ということとなりますが、10月の制度改正による駆け込みの寄附も想定されます。ふるさと納税の寄附金は村の貴重な財源となりますので、目標が達成できるよう努力したいと考えています。

一般質問 (桂川一喜議員)



・ 公有財産売却の公平性について

Q. 公有財産売買の際、東白川村公有財産評価委員会が開かれていない状況をどうお考えですか。

空き家対策として、寄附物件を希望者に売る事業が展開されています。この際、建物と土地がセットであることが条件であり、土地も建物も一旦公有財産となりま

A. 売買物件は個人間による取引となるので、公有財産にはなりません。が、無償で寄附いただく場合には、一時的に公有財産となります。(産業建設課長)

【産業建設課長】
空き家バンク事業は、令和元年度からつながら

き家については、公有財産として売払い価格が発生しない案件として事務処理をしていますので、公有財産評価委員会が審議しないという判断をしています。

Q. 行政側が一方的に値段と売り先を決めることについての考えは。

これまで議会の中でも説明を受けながらやってきましたが、その当時間ないと思っ

ている東白川村公有財産評価委員会が承認を受けているか、いないかという

点については、議会の立場を尊重していただいているという意味では正しい判断だと思

ます。(村長)

【村長】

移住・定住事業における寄附物件、この空き家についても、地方自治法や村の公有財産及び債権の管理に関する規則の趣旨を踏まえ、改めて寄附物件を希望者に売却する際には、競争になるか随契になるかは金額で決まってくることは、ご指摘どおりですが、今後は公有財産評価委員会を開催し、ご審議をいただくことにしたいと考えています。

Q. 村長の考えとして、利益よりも正義はしっかり貫くべきだという考えをお持ちかどうかを伺いたいと思います。

村長は、最近職員の不祥事などの際、利益よりも正義を重んじたいというような考えをお持ちと伺いましたが、ご自身の考えとして、利益よりも正義はしっかりと貫くべきだという考えをお持ちかどうかを伺います。

A. 正義は絶対だと思っております。(村長)



・森林組合との懇談会を実施

9月29日
森林組合との
懇談会を実施

議会と森林組合の役員との懇談会については以前までは定期的に1年に1回行なわれていたが新型コロナウイルスの影響で長い間開催出来ませんでした。森林組合長も交代されて初めての懇談会を森林組合林業研修室で9月29日行いました。

テーマ「東白川村の森林づくりと補助事業」

東白川村の森林づくりの現状・補助金の交付優先順序と枠・今後の組合の森林づくり・企業との連携事業などについてパワーポイントを使って説明を受けた後、意見交換会を行いました。

その後、(VOLVO・グループ)作業機試乗も行い、これまで以上に作業能力が大きく繊細な動きの作業機に皆驚いていました。

森林では村の所有者の

高齢化が進み相続により、村外在住者に移り、村外の組合員が年々増え森林の管理ができず山への関心が低下し、売却、寄附希望者が増加、村外への売却で広範囲による皆伐が行われた神土字大シデ地内の現地視察を行ないました。皆伐が広範囲で行われており土砂災害などが発生する恐れが格段に大きくなっている現地を見て驚きました。

災害への備えとして一部植栽が行われていたが、全ての場所の植栽が終わるのが来年度との説明でした。この地域の皆さんが安心して生活が送れるよう一日も早い対策が必要だと思えます。

先人の皆さんがたゆまぬご苦労により守り育てられてきた東白川村の90%を占める森林を、今を生きる私たちは守り育て後世に確実に引き継いで行かなければならないものと思いました。

産業建設常任委員長

樋口春市

・濃飛横断道三市一村議会委員会合同委員会に参加

濃飛横断道三市一村
議会委員会合同会議

10月14日、第18回濃飛横断道・三市一村議会委員会合同会議が郡上市で開催されました。

この会議は、中津川市、下呂市、郡上市と東白川村の各議会の特別委員会が濃飛横断自動車道の整備促進やリニア中央新幹線に関する情報交換を行う合同会議です。

会議では、要望書の採択等について協議し、決定しました。要望書には、

①『堀越峠道路』の早期工事着手及び『和良工区』の早期開通への支援

②リニア中央新幹線開業を視野に入れた中津川工区の早期開通への支援

③リニア中央新幹線開通後の交通量増加への対策と安定した輸送路確保及びアクセス道路の整備

④濃飛横断自動車道の下呂市から中津川市間及び八幡工区の早期事業化への支援

⑤国土強靱化関係予算に

ついて、資材価格高騰等の影響を適切に反映し、必要な予算の確保

以上の内容が盛り込まれました。

令和7年度事業計画では濃飛横断自動車道事業促進期成同盟会と岐阜県議会濃飛横断自動車道建設促進議員連盟と連携して、本年10月から来年1月にかけて国と県への要望活動を行うことが決定されました。次期開催地は東白川村となり、安江議長が令和8年度の開催に向けて意欲を語りました。意見交換では、各市長、村長をはじめ各議会の委員から多くの発言があり、活発な意見交換となりました。

引き続き関連する4つのテーマで講演が行われました。現在は主に中津川市と郡上市で工事が準備が進められています。工事区間の早期開通と下呂市から中津川市間の早期事業化に向けて引き続き活動します。

産業建設常任副委員長

安江真治

議会のおしあ



・東白川村議会東京要望活動を実施

10月28日
東京要望活動
を実施しました

去る10月28日国会への要望活動に出張しました。

村長、議長、議員6名と事務局2名の合計10名で岐阜県選出の国会議員を訪ね面会を致しました。

最初は、参議院会館で渡辺猛之議員、次に若井敦子議員、その後衆議院会館へ移動して今井雅人議員をそれぞれ訪問して「東白川村の取り組みと直面する課題」と題した要望書を手渡しました。

要望は14項目にわたりますが、村長、議長、議員がそれぞれの課題について説明をし、今後の対策、そして国の考えや支援を要望しました。

国会議員の先生からは要望の項目について細部にわたり質問があり、また、それについての見解をお話下さいました。

要望書の内容は以下の通りです。

- ①義務教育学校に向けた校舎整備補助金について
- ②特別支援教育の充実に関して
- ③自治体DX・地域社会DXの取り組みについて
- ④危険家屋解体に関する助成の拡

充

⑤公共施設の解体補助の創設

⑥農業振興について

⑦国土強靱化実施中期計画に基づいた国土強靱化の着実な推進について

⑧河川砂防事業について

⑨道路建設等箇所付け要望

⑩水道施設の維持更新について

⑪人口減少地域の福祉施設、介護施設の維持対策

⑫過疎地域の医療機関（診療所）の存続について

⑬オンライン診療の促進と中山間地域の医師偏在対策

⑭森林整備について

東白川村議会議長

安江健二



▲渡辺猛之の国会議員事務所を訪問

議員のひびく

崩れかけた

日本の四季

かつて日本には、春夏秋冬の四季がはつきりと巡る豊かな気候があった。春には桜前線が北上し、新緑の季節が過ぎると、蝉の声が夏の到来を告げ、紅葉が山を彩ったあとに冬の雪化粧が広がるこの自然の移ろいこそが、日本人の暮らしや文化を育んできた。

しかし近年、その四季が崩れつつある。春と秋は年々短くなり、春先には花粉と黄砂、最近では梅雨の時期に台風が来たり猛暑の夏が続く真夏に秋雨前線が停滞したり、10月になってからも真夏日が続く12月には季節外れの暖かさが訪れているかと思えば突然の大雪。かつての季節感が通用しなくなってきた。この異変の背景には、地球温暖化があり、気温上昇により地球の

バランスが崩れ、産業の発展と引き換えに、私たちは気候と言う大切な資源を無駄にしてきたのかもしれない。気候の乱れは農作物や生態系に影響を及ぼしている。暖冬は害虫の越冬を助け、翌年の農産物被害を拡大させる可能性があると言われている。暦と自然が一致しなくなった今、四季に寄り添ってきた暮らしの知恵もまた、行き場を失っている。四季の移ろいの変化は、単なる季節感の喪失に留まらず、農業・自然・環境・私たちの生活全てに影響を及ぼすことになるだろう。「日本の四季」は単なる気象現象ではなく、自然と共に生きる文化でもある。失ってからでは遅い、崩れかけた四季をどこかで食い止める術を、私たちは真剣に考えるべき時に来ていると思う。

文責 樋口 春市